

リティヤ（永眠者）

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

誦 司 輔

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。
蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

讃

詞

ひと人を愛する救世主や、死せし義人の靈と偕に、爾が僕（婢）の靈を安んぜ
しめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え、爾獨

り人ひとを愛する主なればなり。

光榮は父と子と聖神に帰す、
爾なんじは地獄に降りて繫つながれし者の鎖を釈きたる神なり、親ら爾が僕（婢）の靈たましいを安んぜしめ給え。

今も何時も世世に、アミン。
獨潔ひとりいさきよく玷きずなき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の靈たましいの救われんことを祈り給え。

重聯禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆きき納いれて憐めよ。

主憐めよ。（三次）

又寝りし神の僕（婢）〔某〕の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。（三次）

輔詠輔詠輔詠

輔詠輔詠輔詠

輔詠輔詠輔詠

主憐めよ。彼（等）の靈の救わんことを祈る。

主憐めよ。（三次）

主憐めよ。（三次）

主憐めよ。諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし惡魔を虚むなしうし、爾の世界に生命いのちを賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）〔某〕の靈を、光る處、茂き草場、平い安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なるに因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯し悉こじとくの罪を赦し給え、蓋人ひとも生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の言は眞実なり。

司詠輔詠輔詠

司詠輔詠輔詠

司詠輔詠輔詠

〔高聲〕蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに

獻^{けん}ず、今も何時も世世に。

アミン。
睿智^{えいち}。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操^{みさお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾^{たのみ}を崇め讃^ほむ。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

福^{ふく}を降せ。光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

死より復活せしハリストス我等の真の神は、その至淨なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、克肖^{こくしょ}捧神^{ほうしん}なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等に別れし其僕（婢）〔某〕の靈^{たましい}を、諸義人の住所^{すまい}に入れ、アウラアムの懷^{ふところ}に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

司

司

司

輔

詠

詠

司

司

司

輔

詠

詠

輔

永遠の記憶

（一、二、のどちらを用いても良い。）

- 一、福樂に適^{かな}いて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠なる哉。
- 二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其^{その}福^{さいわい}なる寝りに於ける永遠の安息を与え、彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

永遠の記憶。（三次）

詠